

吉備高原医療リハビリテーションセンター 徳弘 昭博



はじめに

吉備高原医療リハビリテーションセンターは、岡山県が人間尊重・福祉優先をうたい県の中央部に設置した吉備高原都市にあります。「人と人、人と自然のふれあいのある豊かな福祉社会の実現をめざす」と県の目標にあるように、豊かな自然環境の中にあるリハビリテーション（以下リハ）専門病院です。

昭和62（1987）年6月1日の診療開始以来、「四肢・脊椎の障害、中枢神経麻痺患者の職場・自宅復帰支援の充実をはかる」ことを命題としたリハ医療を推進してきました。

当センターの理念

理念は「リハ医療の技術を通じ身体障害者（主として肢体障害者）のQOLに奉仕する」です。人生の途上での疾病や外傷による障害は個人や家族・関係者に大きな影響を与えますが、この理念はそうした方々に少しでもQOLの高い生活を送っていただきたい、そのお手伝いをする事で社会貢献を果たす、と言い換え

ることができると思います。これを踏まえて、社会復帰までだけでなく社会生活の維持までを視野に入れ、それぞれの障害のレベルにふさわしいリハ医療を一貫して実施することを方針としています。

また、吉備高原都市内はもちろん、医療過疎地域である吉備中央町（人口1万3千人）における唯一の一般病棟を有する中核病院として地域医療に貢献しています。

概要

診療科目：内科、神経内科、アレルギー科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、歯科

常勤医師：8名、歯科医師：1名、非常勤医師：14名

リハ・スタッフ：PT 7名、OT 6名、ST 1名、MSW 3名、医用工学研究員 4名

病床数：150床（障害者施設等一般病棟10：1看護2病棟100床、一般病棟10：1看護1病棟35床、亜急性病床15床）

当センターの特徴

最大の特徴は、脊髄損傷のような脊髄性麻痺の患者を積極的に受け入れリハ治療を推進していることにあります。特に頸髄損傷のような、長期のリハ治療に加えて社会的なアプローチを必要とし、回復期リハの間では帰結が得られない重度障害者を受け入れ（2012年度は脊髄起因の麻痺が新入院者の85%）、良好な社会的アウトカム（社会復帰率：退院者のうち家庭復帰・復学復職・職業リハ移行の合計が86.7%）を達成しています。現在こうしたリハが可能な施設は全国的にも少なく、対象者の紹介元地域は広域にわたります（岡山県外からの入院者が52%）。また、対象者は若年者が多く、対象者の平均年齢は51.3歳で一般のリハ病院のイメージとは異なったものとなっています。

こうした重度の障害を対象にしているにもかかわらず、良好な社会的アウトカムを得ていることは特筆すべきことと考えます。これはリハ医療の特徴であるチームアプローチが実践され脊髄性麻痺のリハ治療に習熟していることによると考えています。

第2の特徴として、国立吉備高原職業リハセンター（運営は高齢・障害・求職者雇用支援機構）と併設されていることがあります。医療と職業の双方のリハセンターを総称して吉備高原総合リハセンターと呼ばれています。リハ医療から職業リハまでを総合的に一貫して行うことで被災労働者の早期の職業復帰をはかることが目的です。

入院中に機能的ゴールの達成が見込まれば、並行して職業リハセンターで職業講習を受けることも行われています。

吉備高原都市内にはこのほかに、重度障害者多数雇用事業所、身体障害者のための能力開発センター、身体障害者授産施設などがあり、医療から職業への連続したリハプログラムを組むことができます。

第3の特徴は、医用工学研究室を持ち、障害者向けの福祉機器・システムを開発し、また研究員（リハ・エンジニア）がリハ・スタッフの一員としてリハ治療に参加してQOLの向上に貢献していることです。

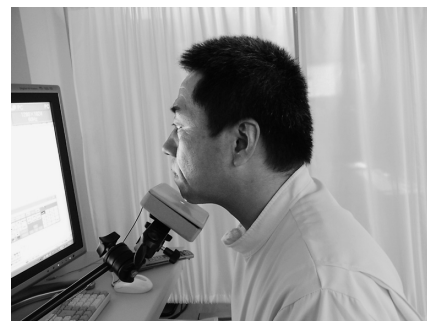
開発したシステムには、3次元コンピュータグラフィックスを用いた住宅改造支援システム、褥瘡予防のための圧測定システム、機器としては頸髄損傷者など上肢機能障害者のための顎操作マウス、車いす使用者のための漕ぎ数カウンターなどがあ

り、これらは実際の理学療法、作業療法の中で使用されます。

顎操作マウスは実際に在宅に復帰した高位頸髄損傷者によってパソコン操作に使用されQOLの向上に貢献しています。

リハ医療の状況

当センターでは要請があれば紹介元の病院まで医師とスタッフが出向き、患者・家族に直接説明し転院後のリハの流れを説明することがあります。また、紹介初診時に正確なリハ医学的評価を行い、スタッフを交えたインフォームドコンセントをはかります。これによってある程度の機能的・社会的ゴールを患者・家族・スタッフが共有してからリハ治療を開始します。



顎操作マウス

リハ治療が開始されると、その経過によりゴールの修正や具体化をはかり、ゴールの達成を目指します。

また、地域医療においてもこのようなリハ・マインドを持って全人的視野での医療を行い、治療と社会生活の両立を目指しています。

おわりに

当センターは民間医療施設ではリハ医療の完結が困難な頸髄損傷のような重度の障害のリハを実施し、良好な社会的アウトカムを得てきました。今後も「療養者ではなく生活者としての社会復帰」を合言葉にリハ医療を推進していきます。

設計段階の3D画像



完成後の写真



3DCGによる実際の改造例（トイレ）

平成25年8月受理
〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7511
電話：0866-56-7141 Fax：0866-56-7772
E-mail：tokuhiro@kibirihah.rofuku.go.jp
<http://www.kibirihah.rofuku.go.jp>